

昭和三十六年六月一日発行の「白根市政だより」第一号からスタートした本紙は、二十七年と九か月を経過し、第四百号を発行することになりました。この間タイトルを「広報しろね」に変更したり、用紙の大きさをA4に、記事の内容など、時代の流れとともに変えながら現在に至っています。発行四周年を迎え、今一度「広報しろね」を見つめ直し、と六人の皆さんから問題点、改善点についてメッセージをいただきました。題して「しろねを斬る(き)る」。



もっと見てもらう努力を

市民に行政の進め方を紹介し、理解を深めてもらうのが広報の役目だと思えますが、そういった意味では、「広報しろね」はその役目をじゅうぶんに果たしているのではないのでしょうか。新聞と広報では、それぞれの作り方がありますので、一概に批評はできないと思います。レイアウトの仕方、写真の扱い方、トピックスの扱い方、見出しのつけ方など、改善の余地はあります。市民の力を入れて、広報の質を上げてほしいと思います。

じ抜きでりっぱな出来ぐあいだと思っ
ています。

問題は、これを市民がどう受け取って
くれているかということです。せつ
かりっぱに作製しても、見てもらえ
ないのではなんにもなりません。広報
に関心を持ってもらうことも大事です。
例えば、工業団地にくつかの企業が
進出していますが、それぞれの企業を
訪問、紹介してみてもどうでしょう。
堅いイメージをなくすため、思い切っ
て漫画を連載するのもおもしろいと思
います。

岡田 成夫さん

おかだ・しげお 51歳
新潟日報社白根支局長
記者歴30年のベテラン。
地域に密着した取材活動
は広報担当のかみ



広報しろねを斬る



「広報しろね」はPRの原点にある

八年前、私が黒埼町の広報紙を作り始めたころ「広報しろね」は目標だった。県内の多くの広報担当者にとって、もそうだったと思う。よく市役所へ行き、当時担当のS係長さんから、広報紙の編集や広報のあり方を学ばせていただいた。黒埼町の住民にはないし、ただ、「広報しろね」はしろねのマネから始まっている。

一度しろねの記事を書き写したことがある。思い知らされたのは、PRの原点である。「正確な情報を中立の立場で提供」しようとしていることであ

広報は役所の宣伝ではないし、ま
の新聞でもない。住民に市の現状、行
政の問題を知っていただき、市政を考
え、市政に参加し、よりよい市政を
実現することだ。住民が行政不信に陥
たら根本的に行政が悪いが、広報が正
しく伝えていかないと、行政が正し
く伝わらない。この「広報しろね」は
PRの原点を守っているように思う。
それが五百号へ、一千号へと続くこと
を祈っている。

五十嵐政人さん

いからし・まさと 30歳
黒埼町役場勤務。「広報く
ろさき」の編集を担当。昭
和62年全国広報コンク
ール特選を受賞。全国の自治
体広報マンの教祖的存在



「広報しろね」を通じて市政を身近に

市民談話室を読むたびに感じるん
ですが、登場している人のすなおな心
が伝わってきて、なんともいえぬほ
えましくなります。こういった生の声
を、市民だけでなく市民を代表する市
議会議員の皆さんからも「広報しろね」
を通じて聞くことができれば、市政が
より身近になるのではないのでしょうか。
市議会を傍聴している市民がどれだ
けいるのか疑問に思います。地区内の
議員さんであれば、何かと接する機
会もあり、市政に対しての考え方など

も分かるのですが、地区外の議員さん
という、接する機会もなく、遠い存
在のような気がしてなりません。
そこで、毎号二人の議員さんから登
場していただき、市民談話室のような
気楽になんでも話せるというスタイル
で、いろいろな考えを聞くことができ
たらと思っています。二十四人の議員
さんがいらっしやいますので、一年間
で全員の声が聞けることになりまし
ます。市民の情報紙として、ぜひ連載をお願
いします。

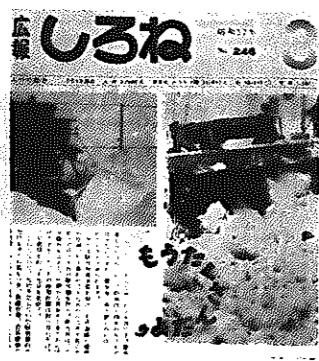
高橋 末江さん

たかはし・まつえ
60歳 西笠巻新田1
市連合婦人会長として、
婦人の学習活動や社会福
祉活動を積極的に推進中



400号の歩み

- 36・% 白根市政だより創刊(タブロイド版)
- 8・5 集中豪雨。自衛隊員、県警機動隊員、市消防団員660人が出動。政府米439俵を越水地点に投入。死者1人、重軽傷者40人、被害4億8000万円
- 9・16 第2号台風。死者1人、重軽傷者35人、被害総額10億円
- 38・% 4・4の豪雪。被害4億6400万円
- 6・9 高松宮ご夫妻が風合戦をご観戦
- 10・2 助役に小林啓一郎さんが就任
- 39・% 国道8号の一部を未舗装で供用開始
- 6・16 新潟地震。17橋のうち11橋が落下、崩壊
- 40・% 根岸中学校新校舎へ移転
- 41・% 小・中学校とも完全給食を実施(20市中初)
- 42・% 水害で床上浸水218世帯、床下浸水706世帯、被害総額10億円
- 10・2 収入役に川瀬平一郎さんが就任
- 11・3 白根市民歌の発表会
- 44・% 市政モニター制度が発足
- 45・% 吉沢市長が、市議会で米生産調整に取組むことを表明。転作目標面積は3366畝
- 11・18 水害で床上浸水35世帯、床下浸水430世帯。被害総額9800万円
- 46・% 新市庁舎で事務開始
- 8・5 合併15周年、市制施行10周年、庁舎落成記念式典を開く
- 47・% 台風20号。被害総額は5億5000万円
- 48・% 和泉工業団地(16・3畝)に野崎印刷紙業(株)が立地決定第1号
- 4・28 市の木「さつき」を選定
- 12・27 戸頭浄水場が通水式。総工事費7億円
- 50・% 農村総合整備モデル事業実施へ。広報しろねをB5版に改変
- 5 白根第一中学校開校式
- 51・% 高井小と松橋小が統合。校名は根岸小学校に。旧根岸中学校で開校式
- 6・18 名誉市民第1号の加藤清二郎さんに名誉市民証を伝達
- 52・% 除雪機が延べ660台出動。除雪距離は1万7000キロに。最高積雪は103センチ
- 52・9・28 議員定数を減少する条例を可決。54年の統一地方選挙から適用(30人から26人に)
- 12・20 茨曾根地区公民館が開館
- 53・% 古川保育園が開園
- 6・26 梅雨前線豪雨。床上浸水95戸、床下浸水280戸、堤防決壊1か所、降雨量324・5mm
- 54・% 庄瀬地域生活センターが開館
- 4・5 大通小学校の開校式
- 6・1 市民憲章を制定
- 3 市制施行20周年記念式典を開催
- 9・1 新飯田小学校が新校舎で授業開始



統一地方選挙
可決。54年の
議員定数を減
少する条例を
可決。54年の
統一地方選挙